

猿の子育て・猫の子育て

梅雨の時期です。「雨には飽

きるが天気には飽かぬ」という

言葉があります。晴れの日が

続いても、文句をいうのが人間

です。何とわがままな生き物で

しょうか。自然に恵まれた日本

人は、天気は本来、「晴れ」を意

味し、自然と共生していました。

ところが、地球上の多くの地域

では、天気はもともと悪いもの

であって、人間はいつもそれに備

えておかねばならないと考

えています。自然観の違いでしょう。

お釈迦さまは、「人生は苦で

び方でしょうか。

一、猿の母親が子どもを運ぶ

運び方で、子どもの方が

お母さんに落とされないと

ようにしがみついています。

二、猫の母親が子どもを運ぶ

運び方で、子どもの首を

お母さんがくわえていて、

子どもはお母さんにまか

せつきりです。

さて、どちらだと思えますか。

「一」を「猿の子育て」、「二」

を「猫の子育て」と呼ぶことにし

ます。仏教では以前から、行

われている論争ですが、基本的

に「猿の子育て」を「自力」(聖道

門)、「猫の子育て」を「他力」

(浄土門)と言えると思えます。

とすれば、もうおわかりですね。

答えは、「猫の子育て」による

浄土への誘いです。

仏道はどちらがいい悪いという

ことではなく、浄土真宗は他力

本願を根本的な教えとするた

め、阿弥陀さま(母猫)にすべて

ゆだねて生きる道なのです。

現代の社会情勢を見ると、コ

ロナウイルスはまだ終息せず、ロ

シアとウクライナの紛争、それ

にともなう物価の高騰、異常気

象等 私たちが生きるのが厳

しい時代です。このような時こ

そ、あまりジタバタしないほうが

いいのかもしれない。阿弥陀

さまにお任せして、お念仏申す

生活を大切にしたいものです。

すなわち子猫のように、母親に

おまかせです。